

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
若林 繁夫			
金2			
添付ファイル			

科目の概要	将来医療・福祉関係の職に従事する学生にとって、臨床現場で起こる様々な倫理的な課題について、その背景・原因・問題点を認識しておくことは重要である。また日進月歩の医学研究においても、ES細胞の使用、ゲノム編集、遺伝子診断などの問題をめぐって多くの倫理的な課題がある。生命倫理については、多くの場合「正解」というものはない。しかし、どのような問題点があり、自分自身はどのように考えるのかをあらかじめ認識しておくことは重要だろう。このような背景のもと、生命倫理についての講義を行う。
授業の内容	<p>第1回 “いのち”の優先順位 新型コロナをめぐって、“医療崩壊”という問題が持ち上がった。切迫した医療現場では、誰に人工呼吸器をつけるか、だれの人工呼吸器をはずすかという究極の選択を迫られる。生命倫理講義の第1回は、今の状況を先取りして制作されたような、「新型インフルエンザの恐怖」というDVDを視聴し、“いのち”の優先順位という重いテーマについて考えたい。</p> <p>第2回 生命倫理をめぐるさまざまな問題点 第2回は、生命倫理をめぐるさまざまな問題点について学ぶ。生命倫理の基本構造、臨床現場におけるインフォームドコンセントや医療におけるケアについて学ぶ。</p> <p>第3回 生まれてくる“いのち”の権利～生殖補助医療～ 第3回は、人工授精、体外受精、多胎妊娠、性的マイノリティーの出産問題などの生殖補助医療における、さまざまな倫理的問題点を扱う。これに関連して、「卵子の老化」というDVDを視聴する。</p> <p>第4回 生まない権利は許されるのか？～人工妊娠中絶と出生前診断～ 近年、病をもって生まれてくるかどうかを出生前に診断できるようになった。そのような胎児の人工中絶は許されるのか？「胎児エコーの光と影」というDVDを視聴し、その問題を考えたい。</p> <p>第5回 技術革新によってもたらされる新たな倫理的課題 生命科学、医学研究のスピードは速く、倫理面が追い付いてないことが多い。「人体改造時代の衝撃」というDVDを視聴し、研究で新たに持ち上がってきた問題について考えたい。2020年のノーベル化学賞受賞対象である「ゲノム編集」を用いれば、原理的には、遺伝的操作で自分の望む子供を産むことも可能であるが、倫理的には大きな問題をはらんでいる。</p> <p>第6回 遺伝子研究の進歩がもたらした新たな倫理的課題～遺伝子診断～ 胎児、幼児、成人を問わず、遺伝子診断によって将来重い遺伝病にかかるかどうかあらかじめ知ることができるようになった。たとえば女優のアンジェリーナは遺伝子診断の結果、乳がん予防のため自分の乳腺を切除した話は有名である。第6回は、「遺伝子診断-新しい予知医療の光と影」というDVDを視聴し、遺伝病になる可能性が高い胎児は中絶してもいいのか、遺伝病にかかる診断されたら保険は適用されるのかといったさまざまな倫理的・社会的な問題について考える。</p> <p>第7回 “いのち”の選択を迫られるとき～終末期医療～ 第7回は、終末期医療について考える。認知症問題、終末期ケア、ホスピス、緩和ケア、尊厳死、安楽死などの倫理的問題について考える。</p> <p>第8回 死とは何か？～脳死、臓器移植、再生医療をめぐる問題～ 人の死とは何か？脳死は人の死と言えるのか？難しい問題であるが、日本では1997年に「臓器移植法」が施行され、ドナーから臓器摘出が可能となった。理想である人工臓器の開発も進展しており、一部では再生医療も行われている。最終回は、「眠れる再生力を呼びさませー脳梗塞・心筋梗塞治療へ」というDVDを視聴する。</p>
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命倫理にはどのようなテーマがあり、それぞれどのような倫理的な問題点があるかをよく認識しておくこと。</li> <li>2. それぞれの問題点について、自分の意見を述べるができるようにすること。</li> </ol>
授業の方法	<p>【授業形態】 パワーポイントと板書を用いた、講義形式で行う。理解を深めるためにDVDを多用する。</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 毎回、授業を理解しているか確認するために講義の感想を書かせたり、ケーススタディーに対する各自の考えを文章に書いてもらい、出席カードとともに提出してもらう。また、できる限り学生に授業中に発言させるようにしたい。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 対面授業ができない場合には録画授業を行い、Streamを用いて履修者に発信する。情報はA-portalを利用して発信する。</p> <p>【その他特記事項】 昨年度の他の科目の授業アンケートでは、DVDの視聴が好評であった。そこで今年度の生命倫理の講義でも、理解を助けるためにDVD視聴を多用したい。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 講義終了後のレポート課題提出、毎回の講義の平常点によって評価する。</p> <p>【割合】 レポート課題の内容：50%、平常点：50%。</p>
教科書・テキスト	毎回、資料を配布する。教科書は使用しないが、必要に応じて紹介する。
参考書	講義の中で、必要に応じて紹介する。
授業時間外の学修について（事前・	興味のあるテーマに関しては、紹介した本、参考書、教科書、WEBなどを利用して自分で勉強してみることを。

事後学習について)	
履修上の留意事項	筆記用具は毎回忘れずに持参すること。
オフィスアワー	出講日（水曜日、木曜日、金曜日）の講義などの予定が入っていない時間帯。
課題に対するフィードバックの方法	レポートの評価などに関して、質問があればオフィスアワーで返答する。
実務経験	医学・生理学の研究・教育、40年以上の勤務実績
その他	